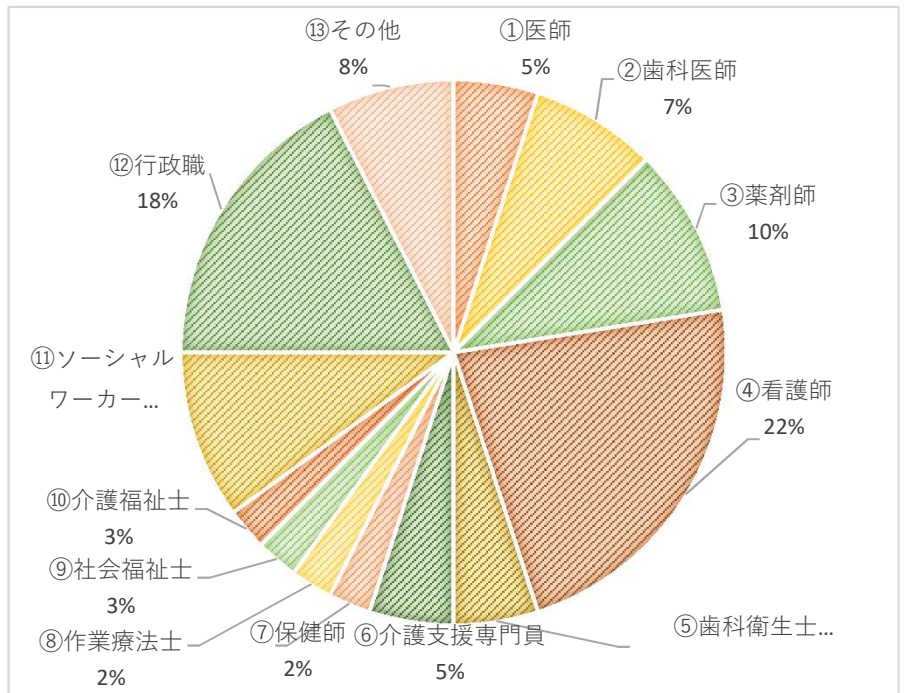


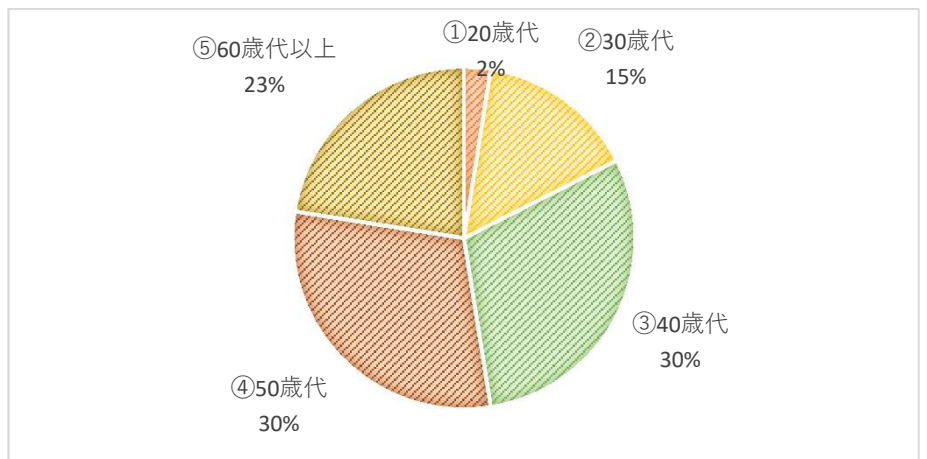
令和5年度 VR認知症体験 アンケート集計結果

参加人数： 42人 回答者数 40人 回収率 95%

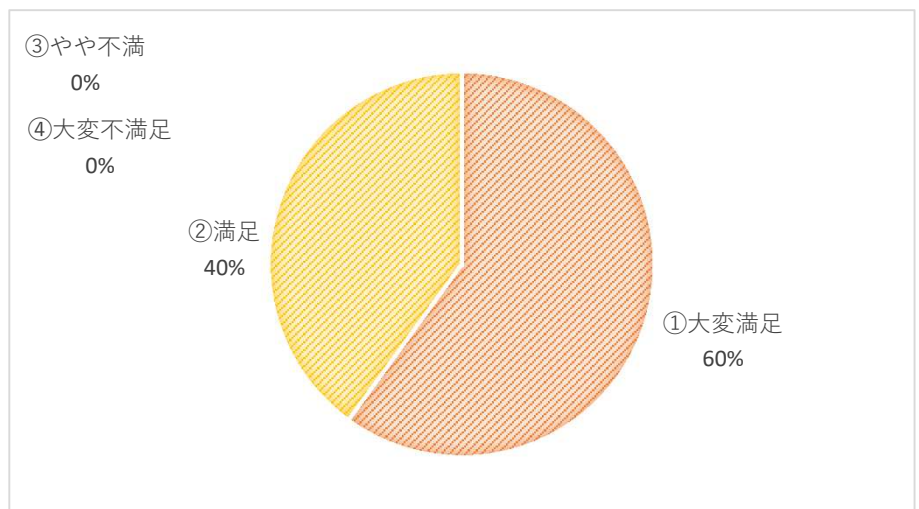
1. 職種	
①医師	2
②歯科医師	3
③薬剤師	4
④看護師	9
⑤歯科衛生士	2
⑥介護支援専門員	2
⑦保健師	1
⑧作業療法士	1
⑨社会福祉士	1
⑩介護福祉士	1
⑪ソーシャルワーカー	4
⑫行政職	7
⑬その他	3
計	40



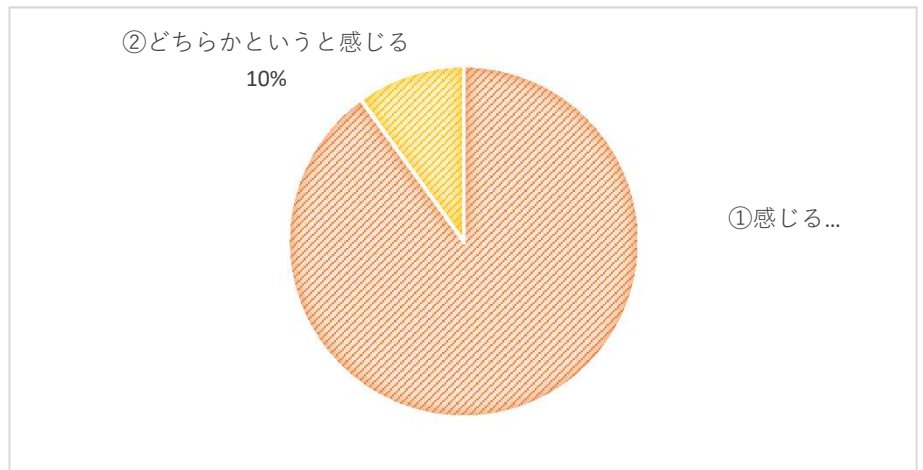
2. 年代	
①20歳代	1
②30歳代	6
③40歳代	12
④50歳代	12
⑤60歳代以上	9
計	40



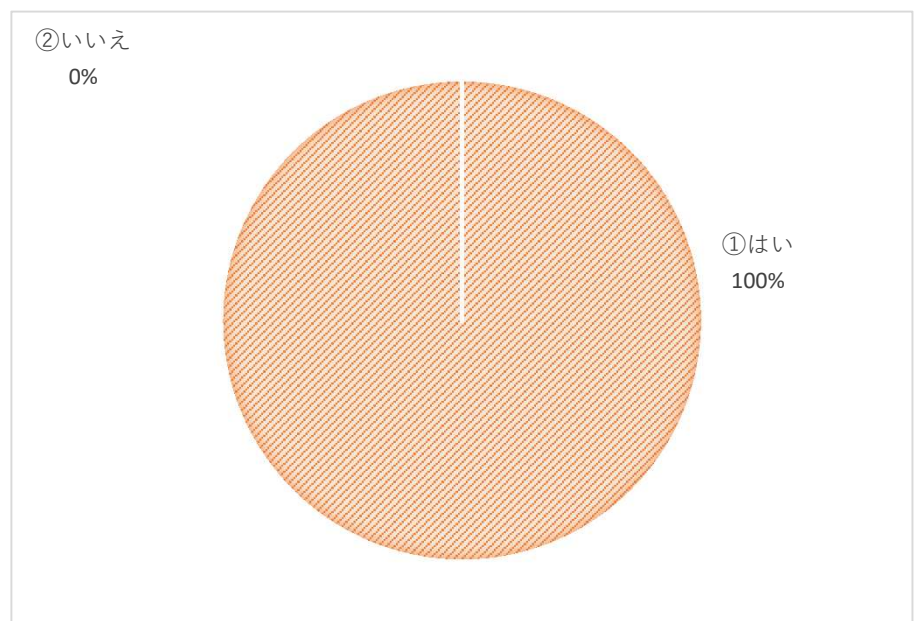
3. 満足度	
①大変満足	24
②満足	16
③やや不満	0
④大変不満	0
	0
計	40



4. 認知症への理解度	
①感じる	36
②どちらかというと感じる	4
③どちらかというと感じない	0
④感じない	0
計	40



5. 他に勧めるか	
①はい	40
②いいえ	0
計	40



研修参加者の声（一部抜粋）

自分が主人公になることで不安や悲しみを体験できた、認知症、幻視への理解が深まった
患者の体験談は大変ためになった、

レビー小体型認知症患者の診ている景色の体験ができたことは良かった

体験により患者の状況や接し方が理解できた（寄り添う気持ちが重要）

患者を否定せずに話を聞くことの重要性を理解できた、気付きをたくさんもらった

視覚・聴覚からではあるが認知症患者の気持ちが分かった

認知症患者の不安事項を把握することの重要性を理解できた

目を合わせてゆっくり話をすることを心がけ不安を和らげるよう対応する

認知への見方が変わった（患者の内面を知る事が重要）

認知症も一つの個性ととらえ相互援助が大事、理解者を増やすことで認知症への偏見をなくせる

「視空間失認」という言葉を初めて聞いた

今まで知っていた認知症とは違っていたことを認識できた

「大丈夫」という言葉が一番大丈夫でないと思った

言葉だけでは分からなかった症状が体験により理解できた

多方面からの声掛けや言語化が重要

多くの方がVR体験により認知について学んでほしい、

認知症であった祖母の行動理由が分かった、早く体験していたらと思う

グループディスカッションでの意見交換が有益であった